

## 教育プログラム・インテンシブコースの概要

大学名等	京都大学医学研究科及び薬学研究科						
教育プログラム・コース名	地域がん医療における病院-薬局-在宅の連携強化・推進に取り組む薬剤師養成コース(インテンシブ)						
対象者	市中病院・薬局勤務の薬剤師および大学教員・学生						
修業年限(期間)	① 研修会(1日間) ② 講演会(1日間)						
養成すべき人材像	地域がん医療における病院-薬局-在宅の連携を強化するとともに、最先端のがん化学療法・緩和ケア・支持療法を理解して薬学的観点からがん研究・学術調査を自ら推進し、エビデンスを構築することができるがんプロフェッショナル薬剤師。						
教育内容の特色等(新規性・独創性等)	本インテンシブコースは、がん化学療法・緩和ケア・支持療法を含む充実した教育内容であり、既存のがん専門薬剤師インテンシブコースとは異なり、日本薬剤師会・日本病院薬剤師会による生涯研修としての認定を受けて実施する。地域の薬局と病院に勤務する薬剤師や大学教員・学生が一つに集まり、がん専門薬剤師や医師を含めて日常のがん診療における問題点やアンメットニーズを把握して、薬学的観点からがん医療の質的向上を目指す特色を有する。特に、特別講演では臨床の最前線で活躍する腫瘍内科医を招き、米国臨床腫瘍学会年会(ASCO)や欧州臨床腫瘍学会年会(ESMO)におけるトピックスを含めた、がん薬物療法の最新動向に関する情報を収集することができる教育内容となっている。このように討議者と参加者間で様々な議論が展開されることによって、両者の知識も深まり、またトレーシングレポートを介した薬業連携の強化、保険薬局が取り組むプライマリーケアの推進に繋がる。						
指導体制	① 研修会形式のセミナー 当院に在籍するがん専門薬剤師が討議者を務め、当院における症例を例示し検討会を実施する。また、当院における様々な取り組み、患者への服薬指導のポイント、トレーシングレポート記載のポイントについて紹介したり、各保険薬局に問題点を挙げてもらいディスカッションを行う。 ② 講習会形式のセミナー がん治療関連領域の最前線で活躍する医師を講師として招き、米国臨床腫瘍学会年会(ASCO)や欧州臨床腫瘍学会年会(ESMO)におけるトピックスを含めた、がん薬物療法の最新動向について講演をしてもらう。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	がん薬物療法の最新知識を有した、がん医療の地域形成と均てん化に貢献する薬剤師、病院-薬局-在宅の連携に基づいたプライマリーケアを推進する薬剤師						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	① 研修会形式のセミナー	100	100	100	100	100	500
	② 講習会形式のセミナー	100	100	100	100	100	500
	計	200	200	200	200	200	1,000